



JSTQBからのお知らせ

認定試験のご案内

リリース予定のシラバス

JSTQBカンファレンスのご案内

JSTQBについて

ソフトウェアテストの技術認定の組織です

2005年に設立し、ISTQBに加盟

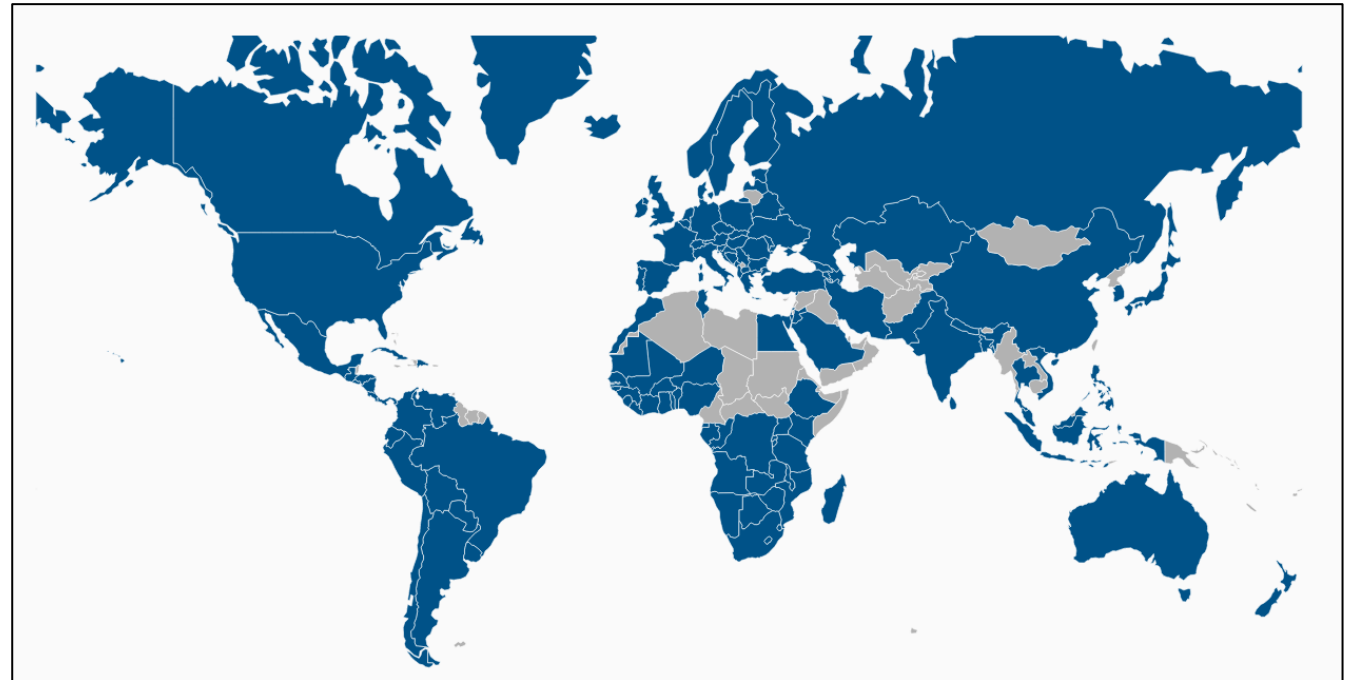
認定資格の発行は25,683件※となっています

※ 2024/3/7現在

ソフトウェアの開発および運用に関わるあらゆる職種の方が資格を取得

JSTQBの認定資格は国際資格になります

ISTQBに加盟している国は全世界130カ国以上



パートナープログラムについて

JSTQBはソフトウェア品質技術及びテスト技術向上への取り組みを
アピールできるパートナープログラムを提供しています
すでに70社以上の企業様が参加！

各社でパートナーロゴを使用した活動を行っております



<https://jstqb.jp/partnership.html>

認定試験について

47都道府県にあるテストセンター※で試験を受けられます ※ピアソンVUE

受験方式はCBTとなっており、いつでも希望の日程を選べます

CBTでは3つの認定試験を受けられます

Foundation Level 試験

Advanced Level 試験 テストマネージャー

Advanced Level 試験 テストアナリスト

運営パートナーの日科技連では、
PBTでのテストや研修とセットになった試験も提供しています
新入社員の研修などにご活用ください

認定に使うシラバスについて

シラバスはISTQB加盟国で共通内容となっており、無料で読めます

JSTQBでは日本語版のシラバスを無料で公開しています

テスト技術者資格制度
Foundation Level シラバス

International Software Testing Qualifications Board

テスト技術者資格制度
Foundation Level シラバス

International Software Testing Qualifications Board

2.1 コンテキストに応じたソフトウェア開発ライフサイクルでのテスト

ソフトウェア開発ライフサイクル (SDLC) モデルとは、ソフトウェア開発プロセスを自動的かつ手動の両方で実行する。SDLC モデルは、このプロセスの中で実施するさまざまな開発フェーズや活動の種類が、論理的かつ体系的にどのように互いに関連しているかを定義する。SDLC モデルの例としては、シーケンシャル開発モデル (例えば、ウォーターフォールモデル、V字モデル)、イテレーティブ開発モデル (例えば、スクラムモデル、プロトタイプリング)、インクリメンタル開発モデル (例えば、敏捷プロセス) などがある。

ソフトウェア開発プロセスの中には、より詳細なソフトウェア開発手法やフレームワークで説明できる活動もある。例としては、受け入れテスト駆動開発 (ATDD)、振る舞い駆動開発 (BDD)、デザイン駆動設計 (DDD)、ユニットフレームワークデザイン (DF)、フィーチャー駆動開発 (FDD)、カンバン、リーンIT、スクラム、テスト駆動開発 (TDD) がある。

2.1.1 ソフトウェア開発ライフサイクルがテストに与える影響

テストの成功のためには、SDLCへの適合をしなければならない。SDLCの選択は、以下のことに影響する：

- テスト活動の範囲とタイミング (テストレベルやテストタイプなど)
- テストドキュメントの詳細レベル
- テスト技法とテストアプローチの選択
- テスト自動化の範囲
- テスト担当者の役割と責任

シーケンシャル開発モデルでは、初期段階では、テスト担当者およびテスト実行に集中する。実行可能なコードは必要で、後のテストはSDLCの初期には実施できない。

イテレーティブ開発モデルやインクリメンタル開発モデルでは、プロトタイプやインクリメンタルリリースを提供することによって、静的テストと動的テストの両方の両立性があることを意味する。インクリメントを頻りに提供するリレーションテストが必要となる。

アジャイルソフトウェア開発では、プロジェクトを漸進的に進める。そのため、アジャイルプロジェクトでは、作業成果物や変更を容易にするためのテスト自動化を充実させることが好まれる。大規模なテスト分析やテスト設計を必要としない環境へ移行する必要がある。

2.1.2 ソフトウェア開発ライフサイクルとよい実践例

選択したSDLCモデルとは関係なく、よいテストの実践には、以下のようなものがある。

- 各開発活動に対応してテスト活動がある。そのため、すべての開発活動が品質コントロールの対象となる。
- 異なるテストレベル (2.2.1項参照) には、冗長性を避けつつ適切な範囲に包括したテストをすることができ、そのレベル特有の異なる目的がある。

ページ 26 / 73

2023年4月12日

English Version 2.0.2
© 日本語翻訳版 2018.J03

ページ 1 / 64

テスト技術者資格制度
Foundation Level Specialist シラバス
自動車ソフトウェアテスト担当者

International Software Testing Qualifications Board

テスト技術者資格制度
Foundation Level Specialist シラバス
自動車ソフトウェアテスト担当者

International Software Testing Qualifications Board

2.2.5 ISO 26262 の文脈における CTFL[®]からのコンテンツの適用 (K3) [60分]

ISO 26262 は、テスト担当者に対して、固有の推奨事項を手法テーブルの形式で提供している。これらのテーブルは、パート 4、5、6、および 8 で提供されている。プロセスや活動に関する機能安全固有の推奨事項は別に、テスト担当者が使用する技法も含まれている。

この文脈では、標準は「手法」という用語を、適用可能な技法や活動すべてに関連して使用している。この点において、機能安全の用語は、ISTQBの用語とは若干異なる。テスト担当者にとって、ISO 26262 の以下の手法は、特に重要である。

- テスト設計技法 (例：同値分画法、境界値分析)
- テスト実行の技法 (例：システムまたは一部のシミュレーションまたはプロトタイプ)
- テストタイプ (例：性能テストなどの非機能性テスト、ゾークテスト¹⁾)
- テスト環境 (例：HIL、車内)
- 静的テスト技法 (例：レビュー、静的解析)

手法テーブルは、各ASIL レベルに対して標準で推奨される手法を定義する。

手法テーブルは、常に同じ構造で定義する。

表 1: 手法テーブルの例

	ASIL A	ASIL B	ASIL C	ASIL D
1 手法 x	o	+	++	++
2 手法 y	o	o	+	+
3a 手法 z1	+	++	++	++
3b 手法 z2	++	+	o	o

ASIL レベルに応じて、各手法に対して、その使用が推奨される (+)、または強く推奨される (++) が示されている。オプション (o) と記される手法については、標準では、その使用について推奨、非推奨のいずれも規定しない。

ISO 26262 では、同等の代替手法もテーブルに記載する (前記の行 3a と 3b)。このような場合、テスト担当者は、開発する要求を ASIL に適合する方法でチェックできる適切な組み合わせを選択する必要がある。テスト担当者は組み合わせた選択を明確に定義して示さなければならない。

代替のない手法 (例の行 1 と 2) は例外なく適用する必要がある。テスト担当者は、該当する ASIL レベルで強く推奨される全手法を適用する必要がある。

前述の例で、以下の手法は、ASIL C の要求の実証のために用いられる。

- 手法 x: 強く推奨される。ISO 26262 に従って調整する場合、通常適用される。
- 手法 y: 推奨される。試験として役立つ場合に適用される。

¹⁾ ハフマンテストの 1 種 [17]

English Version 2.0.2
© 日本語翻訳版 2018.J03

ページ 26 / 64

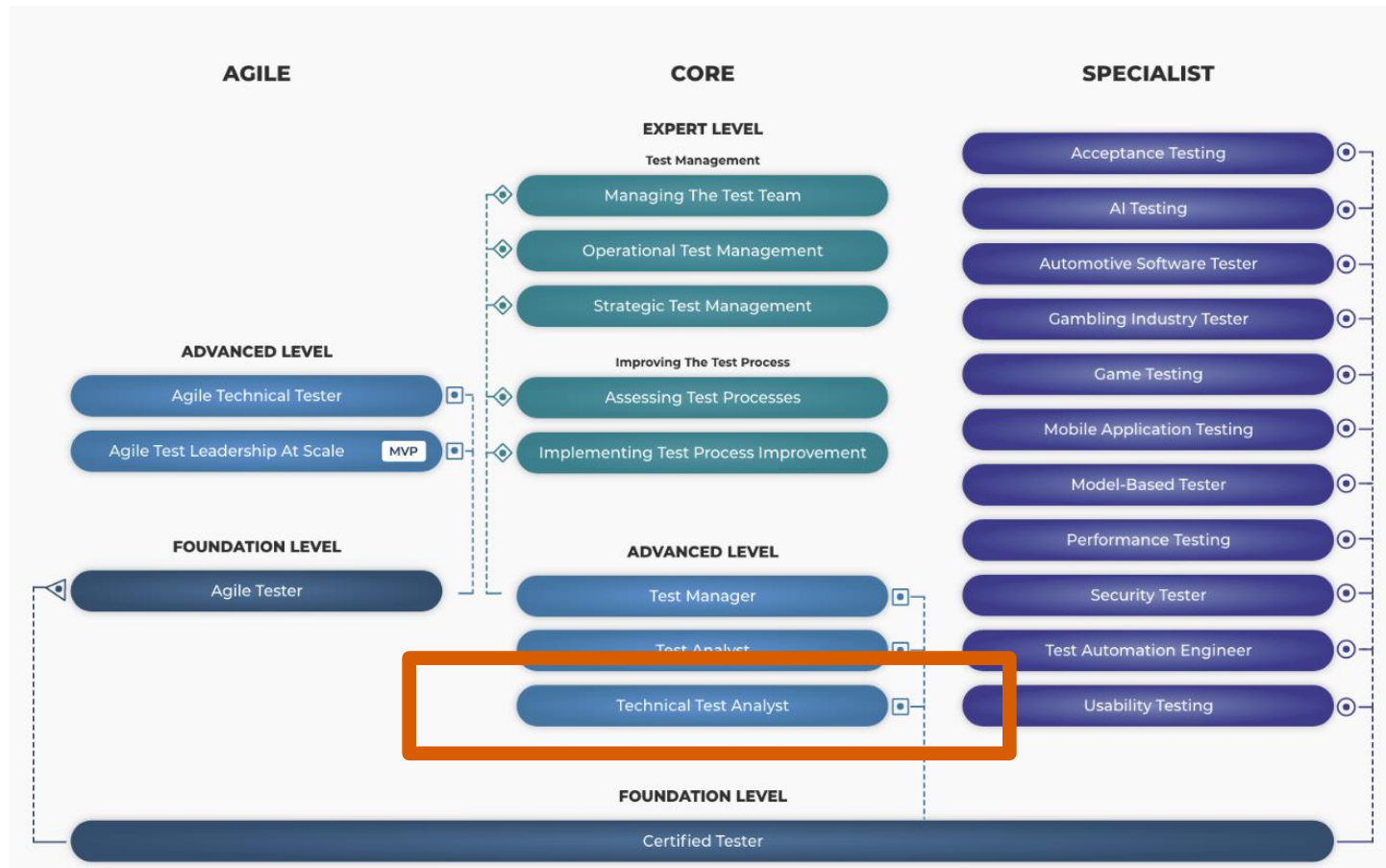
4 Jul 2018

シラバスは技術書としても活用できます



TTA（テクニカルテストアナリスト）シラバス紹介

TTA (テクニカルテストアナリスト) 試験について



引用 : <https://www.istqb.org/#certifications-diagram>

ISTQB CORE内のAdvanced Levelのひとつ
JSTQB (日本語の試験) では、現在試験は行っていません

※ 2024年 3月現在

ISTQB Advanced Level

Advanced Level

Test Manager

- マネージメントを行う
テストにおけるマネージャー向け

Test Analyst

- 主にテストを行い、
特にブラックボックステスト技法を
扱う技術者向け

Technical Test Analyst

- 主にテストを行い、
特にホワイトボックステスト技法など
を行う技術者向け
- テストアナリストよりもテクニカルな
技術を使ったテストについて記述

ISTQB Advanced Level

テクニカルテストアナリスト シラバス

👉 ダウンロード(PDF/854KB)

ISTQBテスト技術者資格制度

Advanced Level シラバス 日本語版 テクニカルテストアナリスト
Version2012.J02

作成:International Software Testing Qualifications Board
(翻訳:Japan Software Testing Qualifications Board)

※現在、本シラバスの試験はJSTQBでは実施していません。

JSTQBの公式サイトでは、
2012年度版のテクニカルテストアナリストシラバスは公開済み

今回の更新は、最新版のV4.0のシラバスの内容
V4.0は2021年にISTQBにより公開
(V4.0は近く日本語版が公開予定)

引用 : https://jstqb.jp/syllabus.html#syllabus_coreadvanced

2012年版シラバスとの差分

- ホワイトボックステスト技法
 - 実践的で分かりやすいような記載に変更
 - 表などを用いた視覚的に分かりやすい記述は削除しているため、別の資料を参照して学習が必要かもしれない
 - ISO/IEC/IEEE 29119 においてのカバレッジの達成条件などにも言及
- 品質特性の参照元の標準
 - ISO/IEC 9126 からISO/IEC 25000シリーズに変更
 - 最新の品質特性との整合性が合うようになった

V4.0におけるシラバスの内容

- リスクベースドテストにおけるテクニカルテストアナリストのタスク
- ホワイトボックステスト技法
- 静的解析と動的解析
- テクニカルテストのための品質特性
 - セキュリティテスト
 - 信頼性テスト
 - 性能テスト
 - 保守性テスト
 - 移植性テスト
 - 互換性テスト
- レビュー
- テストツールと自動化

V4.0におけるシラバスの内容

- リスクベースドテストにおけるテクニカルテストアナリストのタスク
 - テクニカルな視点からのプロダクトリスクの考慮
- ホワイトボックステスト技法
 - ソースコードを対象としたホワイトボックステスト技法
- 静的解析と動的解析
 - ソースコード、実行ファイルの解析
- テクニカルテストのための品質特性
 - 品質特定における、非機能的なテスト
- セキュリティテスト
- 信頼性テスト
- 性能テスト
- 保守性テスト
- 移植性テスト
- 互換性テスト
- レビュー
 - アーキテクチャー、ソースコードのレビュー
- テストツールと自動化
 - テストの自動化における考え方

品質特性におけるテストアナリストとテクニカルテストアナリストの関心の違い

特性	副特性	テストアナリスト	テクニカルテストアナリスト
機能適合性		○	
信頼性			○
使用性		○	
性能効率性			○
保守性			○
移植性		○	○
セキュリティ			○
互換性	共存性		○
	相互運用性	○	

非機能テストにおいては、テクニカルテストアナリストの方が広範囲をカバーしている

テクニカルテストアナリストシラバスを読んでほしい読者

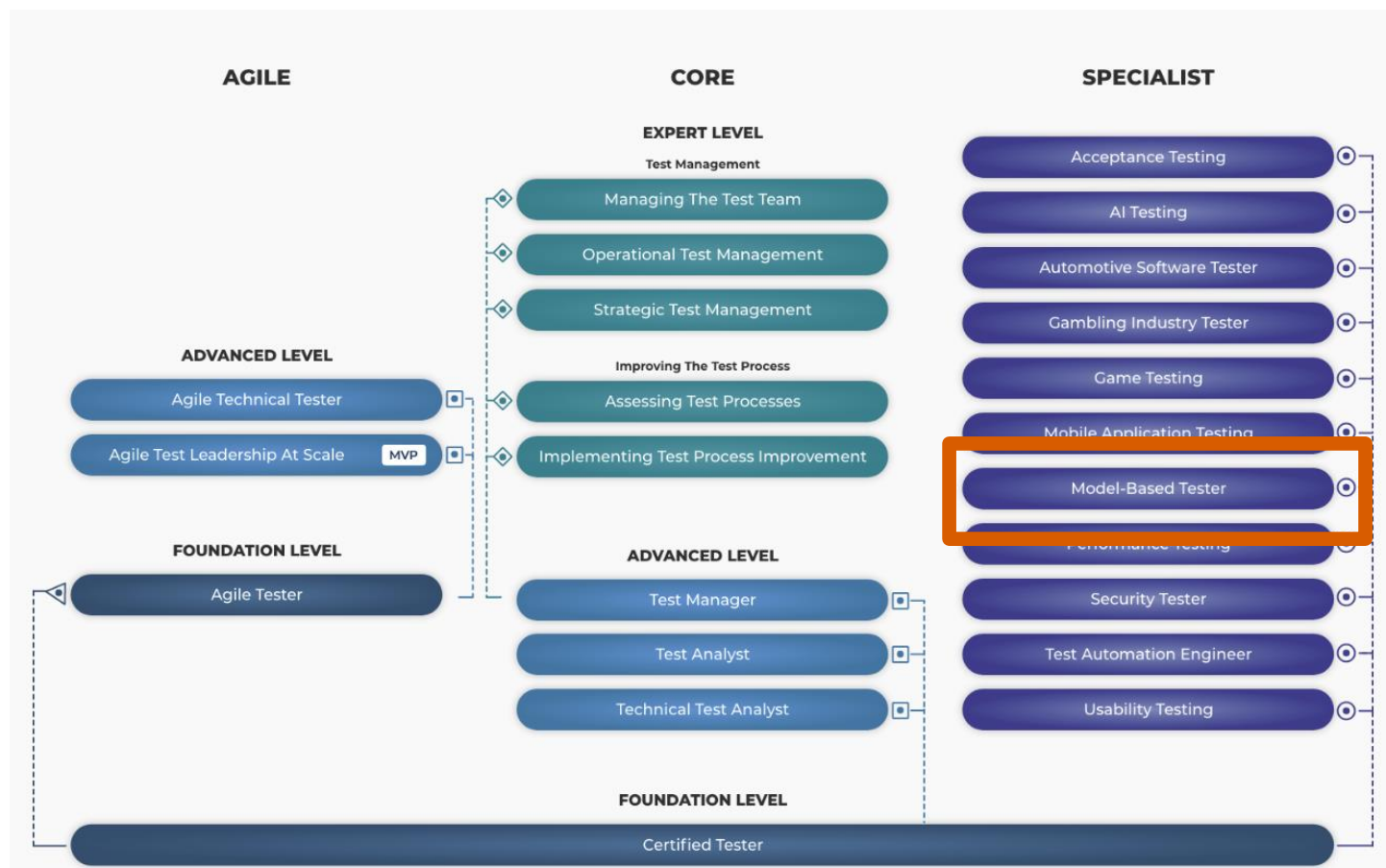
以下のような人はシラバスを参照してほしい

- ソフトウェア開発者
- テストマネージャー
- 非機能的品質のテストについて勉強したいテスト担当者
- テクニカルな技術を活用し、品質向上や、テストの改善を行うテスト担当者
- テクニカルな技術を活用したテストを勉強したいテスト担当者
- 開発者のテストを改善したい管理者やマネージャー



MBT（モデルベースドテスト担当者）シラバス紹介

MBT（モデルベースドテスト担当者）試験について



ISTQB Specialist内のひとつ

JSTQB（日本語の試験）では、現在試験は行っていません

※ 2024年 3月現在

ISTQB Specialist

JSTQBの公式サイトでは、MBTシラバスは未公開。今年中に公開予定。

- 現在JSTQBで公開しているSpecialistシラバスは以下。
 - AIテストティング
 - 自動車ソフトウェアテスト担当者
 - モバイルアプリケーションテスト担当者
 - 性能テスト担当者
 - テスト自動化エンジニア

参考：https://jstqb.jp/syllabus.html#syllabus_specialist

モデルベースドテスト担当者の位置づけ

- 「テストにモデルを使用したテストアプローチを活用するテスト技術者」
- モデルベースドテスト担当者は、下記のことことができます。
 1. 標準用語とMBT の概念、プロセス、テクニックを使用して、モデルベースドテストチーム間で共同作業できる。
 2. モデルベースドテストをテストプロセスに適用して統合できる。
 3. 確立された手法とモデルベースドテストのよいプラクティスを使用して、MBTモデルを効果的に作成および維持できる。
 4. テストされた機能のリスクと価値を考慮して、MBTモデルからテスト成果物を選択、作成、維持できる。
 5. 組織が品質保証プロセスを改善し、より建設的かつ効率的になるようサポートできる。

モデルベースドテスト担当者シラバスの内容

- シラバスの目次構成
 1. モデルベースドテスト入門
 2. MBTモデリング
 3. テストケース生成のための選択基準
 4. MBTテストの実装と実行
 5. MBTアプローチの評価と導入

モデルベースドテスト担当者のポイント

- シラバスの目次構成

1. モデルベースドテスト入門

標準用語と
MBT の概念

テスト
プロセス統合

2. MBTモデリング

モデルや
モデリング言語

モデリング活動の
良いプラクティス

3. テストケース生成のための選択基準

モデル毎の選択基準

4. MBTテストの実装と実行

手動と自動

5. MBTアプローチの評価と導入

MBT導入目的・効果

モデルベースドテスト担当者を読んでもほしい読者

- テスト設計者、テストケース作成者
 - 特に、同値分割法、境界値分析、デシジョンテーブルテスト、状態遷移テストなどのテスト設計技法をもっと活用したい方



JSTQBカンファレンスについて

JSTQB Conference in 2024 Autumn

開催日時：2024年10月9日(水) 13:00-18:00

開催形式：オンライン（ZOOM）

connpassのお申し込み開始

来日講演決定！

ERIK VAN VEENENDAAL氏



TMMiをはじめとするテストプロセス改善モデルの実践例



JSTQBパートナープログラムに参加している企業様は会場にご招待！
併設するチュートリアルや情報交換会にご参加ください
詳しいご案内は後日、JSTQB事務局から連絡いたします

JSTQB YouTube

昨年開催、JSTQB Conference in 2023 Autumnを配信中

<https://www.youtube.com/@asternpo1393/videos>



A screenshot of the JSTQB YouTube channel page. The channel name is 'JSTQB' with the handle '@asternpo1393'. It shows 141 subscribers and 11 videos. The page displays a grid of video thumbnails with titles such as '進化したFLシラバス', '4 challenges met by the new syllabus', 'DevOpsでの品質管理', 'Quality for DevOps teams', and 'ISTQB in a nutshell'. Each video includes its duration and view count.

